

大規模噴火時の広域降灰対策の検討ワーキンググループ（案）

○趣旨

大規模噴火時には山麓のみならず、遠隔地域においても火山灰が堆積し、国民生活、社会経済活動に大きな混乱が生じることが懸念されていることから、都市機能が集積した首都圏等を含む広域な地域における、大規模噴火時の応急対策の在り方等を検討する。

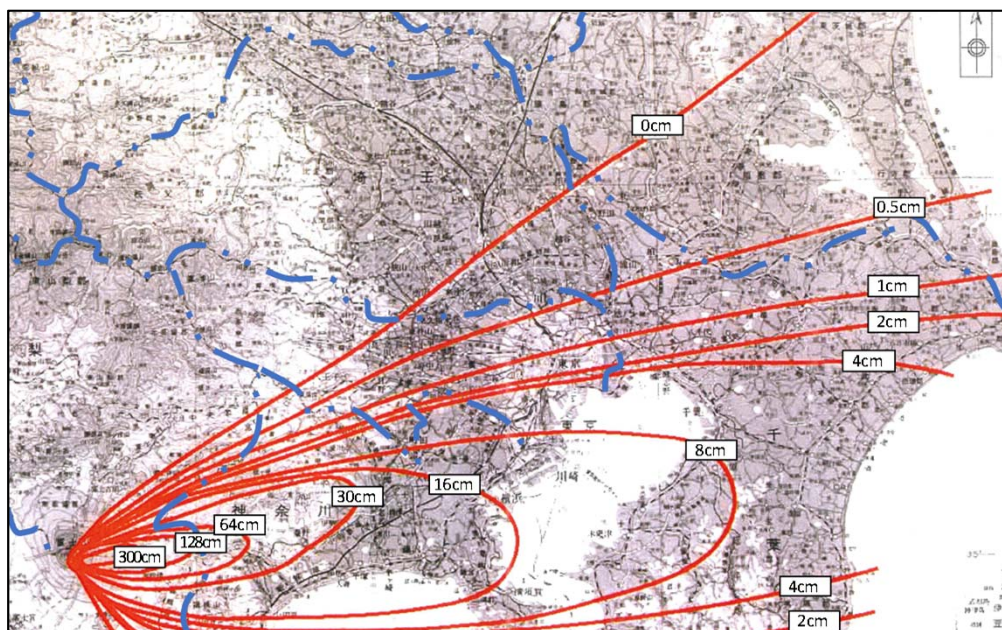
○メンバー

- ・学識経験者（火山学、危機管理、情報学等）
※オブザーバに関係地方公共団体、関係省庁

○論点

- ・首都圏等を含む広域の降灰対策を検討するための被害想定
 - 富士山をモデルケースとした、噴出率、風向等による複数パターンの降灰の時系列シミュレーション
 - シミュレーションを元にした被害想定
- ・交通、ライフライン等、各分野で実施する降灰に対する応急対策
- ・除灰の実施手順や処分場所確保の考え方

等



富士山・宝永噴火（1707年）の降灰分布（実績）

◎降灰が与える影響

- ・建築物（家屋）
- ・鉄道
- ・電力供給施設
- ・電子機器、通信インフラ
- ・道路交通、自動車車両
- ・空港、航空機
- ・上下水道施設

等



宮崎県県土整備部